

JAAC だより

『大学で何をどう学ぶか？』

— 価値ある・意味のある学生生活とは —

JAAC 日米学術センター
代表 高瀬 永俊

JAACの学生、保護者の皆様、関係者の皆様、新年明けましておめでとうございます。

いよいよ新たな年の幕開けです。昨年是世界中で、自然の恐怖を味わった年でした。ニュージーランドの地震をはじめ、わが国では、東日本を中心とした地域の大震災、そして原子力の脅威を感じました。まだまだ、復旧、復興は始まったばかりです。この先、幾年もの年月を経過しなければなりません。現代社会における我々の力も、大自然の牙には太刀打ち出来ませんでした。この経験を教訓に変えるまでには、まだ時間がかかりそうです。80年余りの人間の時間経過の中では、様々な出来事が起こることを示してくれました。人間の持つ傲慢さや、独りよがり的な陳腐な考え方の危険性も示してくれました。遠い道のりでの復旧と、復興を成し遂げるには、利他の心を持ち、私心のない判断を行い真の勇気を持つことではないでしょうか。日本の再建に向けて我々は何を思い、考え、実行するかで、成就するか否かが決定するのではないのでしょうか。一人の人間として、この様なことを思う今日この頃です。

さて、世の情勢が変貌・変化しても、自己の持つ判断の基準に誤りがなければ、大抵の局面においては乗り越えられるのではないかと思います。アメリカの大学を舞台に学生生活をおくっている皆さん、これからアメリカの異文化や異習慣の中での大学生活を選択された皆さんに、次の様なことを心に留めて考えていただきたいと思います。

『大学で何をどう学ぶか？』というタイトルにしましたが、社会学、心理学、教育学、哲学などの分野からの考察ではなく、経営学的な側面からの考察から導き出していきたいと思います。経営学的思考とは、わかりやすく言うと「あらゆる価値の最大化を目指す」ということだと思います。そのためには、投資した資源（資金・労力・時間など）を効率的に回収して、それを上回る利益をあげることなのです。つまり、保護者からの学費の投資により、大学生と言う身分と、学生生活と言う数年間の時間の担保と言う自己経営の手段や道具を手に入れ、それらを効率的に活用しながら、人間としての成長という利益をあげるべきとの考察に行き着きます。従って、その過程では「大学や学生生活に伴うあらゆる価値を、どの様に最大化すればよいのか」の問題意識が問われると思います。経営学的思考からの考察は、決して人生の損得勘定の計算高さではないということも付け加えておきたいと思います。

1. 【機会としての大学】

人間的成長を目的とする大学の本質的意味を考えると、大学のレベル、建造物、施設等々ではなく、「機会・・・チャンス」として考えると分かりやすいのではないのでしょうか。大学とは、「自分の本質を発見し、自己を広げたり深めたりすることによって、自己の価値と可能性を高める成長のための機会」と位置づけることにより、自分なりの大学像が見えてくると思います。決して難しく考えるのではなく、日々のカリキュラムや行事、また寮生活などを淡々と過ごしてゆくこと自体が、チャンスの好機をつかむことになるのだと思います。淡々と事を進めることによって、潜在意識（無意識の行動）に落とし込むことが重要なファクターだと思っています。（敵は自分の中にいます）

2. 【人生の縮図としての大学生活】

小学校・中学校・高等学校における児童生活・生徒生活も人生の縮図として位置づけることも出来ますが、しかし、これらの学校での生活では、先生方から与えられた事柄を、日々無難にこなすことで精一杯であり、日常生活を自分の意思で、デザインする自由はほとんど与えられていませんが、大学生としての学生生活では、ほぼ無制限に自由の選択肢が存在します。もちろん、学部、学科などにおける卒業単位の取得と制約はあるものの、興味ある分野へ自由にその選択を変更することは出来ます。大学では、「やめる自由、移る自由」が無制限に与えられます。中学校までの義務教育とは明らかに異なりますし、高等学校よりもはるかに自由度が高いと言えます。

(次ページに続く)

その後の就職をしてからの企業戦士としての生き方では人生の縮図どころか、「人生そのもの」と大部分が重複しますので、「縮図」などと悠長に構えている余裕はありません。職場における失敗は、人生そのものに多大な影響を与えますが、学生生活における失敗の多くは、いくらでも取り返しがつくと考えて良いと思います。その意味では学生生活は「人生のシュミレート・模擬体験・予行演習」と位置付けを持たせることができます。大学生活を通じて、社会に出てから直面する多くの問題を、その意思さえあれば体験することが出来ます。さらに大学生活は高校生と社会人の中間地帯に横たわる、宙ぶらりんな数年間を通じて、「公と私の関係」を確立しながら「自分とは何か」というアイデンティティ（自分らしさ）を模索する場でもあります。

3.【まとめ】

大学では卒業後に社会人として、働く必要な諸条件を身につけるために専門的教育を受ける機会であり、「働く」ということは「世の中に対して、自分なりの価値を生み出し社会に対しての役割を果たすこと」だと思います。大学在学中に得ることのできる能力として（知識・見識・情報・技能・人脈・経験等）があります。大学と言う機会、大学生と言う身分、学生時代と言う期間を通じて、上記の能力を効率的に学び得ることだと思います。全ては自分自身が決めることです。この「自分で決める」ことこそが、簡単にも思えますが一番難しいことなのです。このコラムを読んで、自分なりのアレンジを加えて、実行に移すか今までの自分のままでいるかは全て「あなた次第」なのです。「あらゆる価値の最大化を目指す」ことのできる大学生活を過ごしたのなら、きっと皆さんの前途は希望に満ちたものになるでしょう。そしてどのような困難に遭遇しても、必ず解決の糸口を見つけ出す能力を身につけていることでしょう。

混沌とした時代の中でも生ある人間は前に進まなくてはなりません。「歩みを止めてしまうことを恐れることが出来るのか」・・・とも言えます。日々の淡々とした歩みを繰り返し実行（身体：五感）（頭：考える）（心：思う）することで、いつしか自己の能力と価値が最大になっていると思います。その時、皆さんは社会に飛び立てる時期を向かえます。どうかこの一年、こんな気持ちを抱いて留学生活に、取り組んでいただければと思います。

新成人となられた JAAC 生の皆さん、

ご成人おめでとうございます！

今年、めでたく新成人となられた JAAC 生の皆さん、ご成人誠におめでとうございます。晴れて大人の仲間入りとなられた皆さんに、心よりお祝いとお慶びを申し上げます。

1991年に生まれて、今年、新成人になられた方の数は122万人。昨年と比較すると2万人減で、5年連続で過去最少を更新したことになります。また、総務省人口推計調査が始まった1968年以降で最も新成人の数が多かった1970年（第一次ベビーブーム時）の約246万人と比べると、今年は初めてそのピーク時の半数を下回ったことになります。今年の新成人は男性が約62万人、女性が約60万人で、日本の総人口に占める割合は0.96%で、これもまた8年連続で低下しました。成人式を迎えられた皆さんのなかには1992年生まれの方もいらっしゃると思いますが、皆さんの多くが生まれた1991年はどのような年だったのか、世界情勢を中心に主な出来事を振り返ってみましょう。

1991年1月に「湾岸戦争が勃発」し、「多国籍軍がイラク空爆」を行い、2月にはクウェートを開放しました。4月になると、自衛隊初の海外派遣となる「海上自衛隊ペルシャ湾掃海派遣部隊」が出発しました。ヨーロッパでは、6月に東西統一後の「ドイツが首都をベルリンに移転することを決定」し、同月、「ユーゴスラビアからスロベニアとクロアチアが独立」しました。また、7月には「ワルシャワ条約機構が解体」され、8月には「ソ連8月クーデター」が起き、保守派が当時の「ゴルバチョフ大統領を軟禁」しましたがクーデターは失敗しました。9月に入ると「ソビエト連邦がバルト三国の独立を承認」し、同月、「韓国と北朝鮮が国連同時加盟」をしたあと、「エストニア、ラトビア、リトアニアのバルト三国も国連に加盟」しました。さらに同月には、ユーゴスラビアから独立した「クロアチアとユーゴスラビアとの間でクロアチア紛争」が起きました。日本では10月に「海部首相が退陣表明」を行い、11月には「宮澤内閣が発足」しました。12月になると、「世界の翼」と称されたアメリカの「パンアメリカン航空（Pan Am）が運行を停止し、倒産」しました。そして、「ソビエト連邦が崩壊し、ゴルバチョフ大統領が辞任」しました。

こうしてあらためて振り返ってみると、皆さんが生まれた1991年は実に目まぐるしい世界情勢の下に世界的にも大きな変化が起きていた年だったことがわかりますね。この年に起きた出来事は、現在でもまだ多くの国々にその影響を残しています。一つひとつの出来事が懐かしく想えるのと同時に、年月の流れの早さと歴史の重みを感じる次第です。

では、皆さんが生きていくこれからの時代はというと、決して楽な時代ではないと言えるでしょう。年々、減少の一途を辿っている新成人数でありながら、就職内定を得ることは容易ではなく、皆さんが支えていかななくてはならない高齢者人口は増加し続けています。でも、忘れないでください。皆さんはご両親の精一杯の愛情を受けながら、多くの方々から育てられ、支えられて成人となったことを。そして、これからは社会の成員としての責任と義務を果しながら社会のために生きていかななくてはならないことを。それが、今まで皆さんの成長を応援してくれた方々への恩返しなのです。皆さんにはこれからの困難に立ち向かう大きな夢と希望、そして、強い心を持ち合わせていると信じています。（カリフォルニア事務局：照井）

これからも受け継いでいきたい日本の伝統と風習

その昔、亡くなった人の魂は田畑や山の神になり、お正月には年神（としがみ）となって子孫繁栄とその年の豊作と幸をもたらしてくれると言い伝えられてきました。お正月には祖先の神様でもある年神様（としがみさま）をお迎えするという行事が、お正月の様々な風習として今に伝えられています。その際にお供えた食べ物がお節（せち）料理でした。ですから、お節料理は家族の繁栄と幸を願う縁起ものの料理なのです。それぞれの料理には日本語独特の語呂合わせを用いて、おめでたい意味が込められているのです。元旦を祝うのは、ただ新年を迎えた慶びを祝うだけのものではなかったのです。また、1月15日は小正月（こしょうがつ）と言って、この日は1年の豊作を願って小豆がゆを作って食べる風習があり、小正月の前日には、神社やお寺の境内に門松やしめ飾りなどを持って行き燃やす左義長（どんど焼き）が行われます。

長い歴史を持つ日本には、このように民衆の間に根付いた風習があり、それらを先人たちは日本の伝統として次世代に継承してきました。最近では核家族化が進み、昔から伝わる行事を率先して行うお年寄りの方々が身近にいないこともあり、年々、様々な行事が簡略化されているように思えます。私も含めて特に若い世代では、昔からの言い伝えによる風習や行事の意味を正しく理解せぬままに、私たちの生活からその姿を消していくようにも感じます。日本人として、先人たちから受け継いできた伝統や風習が消えていく様はとても寂しく想います。1年の初めである今、ほんの少しだけ日本の伝統と風習について考える時間を持ってみませんか。一瞬ですが、私たちのご先祖様と一緒に時間を過ごせるような気がします。(照井)

留学とグローバル化する教育の場

ここ数年、旧国立・公立大学も含めて多くの私立大学で学生の成績評価としてアメリカ式の GPT (Grade Point Total)、GPA (Grade Point Average) 制の導入が目立ってきています。旧来の「秀」、「優」、「良」、「可」、「不可」で表す成績から4から0までの点数に置き換えて、評価を数値で表す方法へと転換してきています。このことによって、学生は自身の成績評価を具体的に把握することができるようになり、学習の達成目標をより明確にすることが容易になると考えられています。また、アメリカの大学・大学院に留学（編入など）する際にも、成績評価方法が一元化されていることはとても便利です。成績評価方法を例にとっても、教育の場のグローバル化が進んでいるように見えますね。留学というと、日本人が海外で学ぶことを連想しがちですが、一方で海外の学生が日本に留学していることも考えなくてはなりません。2000年度には64,000人だった外国人留学生の数は、2010年度には142,000人と増加しています。日本のグローバル戦略の一環として、2008年には「留学生30万人計画」が策定され、2020年を目途に留学生受入30万人を目指すとされています。当然のことながら、外国人留学生のなかには大学卒業後に日本で就職する学生もいて、その数も年々、増加している状況です。社会のグローバル化に伴って、生産拠点や市場、商圈をアジアをはじめとする海外に求めている企業の数も増加の一途を辿っています。このことから、日本の学生や JAAC の皆さんは、就職活動において外国人留学生とも競い合わなくてはならないこととなります。教育の場がグローバル化されるということは、様々な方面に影響をもたらすことも考える必要がありますね。(照井)

Let me remind you. . .

★JAAC 生の皆さん、保護者の皆さん、何でもお気軽にご相談ください

◆JAAC 生の皆さんへ： 新しい年の新学期が始まりました。履修科目の Drop and Add (教科履修の変更) の期間を再確認して無理のない履修計画で学習しましょう。今学期終了後に卒業する人や、今年、編入を計画している人は必要な単位を落とすことのないように心がけましょう。

■就職活動をする JAAC 生の皆さんへ： 自分自身を紹介するエントリーシート (ES) の書き方を研究し、適切な日本語で表現する練習を繰り返しましょう。また、海外大学卒業者 (見込み者) を対象としたジョブフェア等の情報には必ず目を通すように努めてください。

●JAAC 本館内保護者様専用ご連絡・ご相談窓口：

フリーダイヤル 0120-525-626 tokai@jaac.co.jp 担当：高瀬

JAAC 日米学術センター 鈴木：t.suzuki@jaac.co.jp ©カリフォルニア担当：照井 k-terui@mtg.biglobe.ne.jp

謹んで新春の祝詞を申し上げます

新しい年を迎え皆様のご健康とご多幸をこころからお祈り申し上げます

JAAC 日米学術センター

代表 高瀬 永俊

スタッフ一同